



*** かいせつ ***

「愛とは決して後悔しないこと」——この言葉を日本中に広め日本のみならず、世界中で空前の大ヒットをし、原作およびレコードもベストセラーとなって「ある愛の詩」ブームを巻き起こしたことはまだ記憶に新しい。若い人の永遠のテーマ、愛の純粋さを描いて多くの問題を投げかけた秀作である。

超ベストセラーとなったエリック・シーガルの原作「ラブ・ストーリー」を「おかしな夫婦」「ラ・マンチャの男」のアーサー・ヒラー監督が、主役の二人にアリー・マックグロウとライアン・オニールを起用して、死期のせまった若い妻とその夫の短く激しい〈純愛〉を清冽にうたいあげた。

撮影はニューヨーク、ボストンのロケが美しく、大ヒットした音楽はフランシス・レイ。この作品で70年度アカデミー賞作曲賞を受賞している。



●近日《特別鑑賞券800円》前売開始!

待望4月中旬ロードショー

テアトル銀座 (561) 7938

地下鉄銀座又は京橋下車・テアトル東京地階

新宿 武蔵野館 (354) 5670

国電・新宿駅東中央口前



愛しあう二人なのになぜ哀しみの詩が流れる——

カラー作品
ある愛の詩^{うた}
Love Story

アリー・マックグロウ * ライアン・オニール

監督 アーサー・ヒラー

* 愛とは決して後悔しないこと *

パラマウント映画 ◉ CIC 配給



カラー作品

ある愛の詩

うた
Love Story

原作・脚本 エリック・シーガル (エラフ・ストリー) 角川書店刊

*ものがたり

オリバー(ライアン・オニール)はニューヨークのセントラル・パーク・スケート場の観覧席で想いに沈んでいた。たつた今、医師から妻のジェニー(アリー・マックグロウ)の死期がせまっている事を知らされたのだ。オリバーはアイス・ホッケーの選手で、彼が滑るのを笑顔で見ていたジェニーを思い出す。

オリバーが最初にジェニーと会ったのは大学の図書館だった。ジェニーはそこにずっといて彼を「坊や」と呼んだ。やがて一緒にお茶を飲みに行くようになったが、オリバーはパーレット家という高名な良家の四世でアイスホッケーだけが趣味という世間知らず。ジェニーはと云えばイタリア移民の菓子屋の娘で、趣味はパロック音楽。そのあまりの身分の差に、かえってひきあうものを感じた。

オリバーがジェニーのハープシコードの演奏を聞きに行つてモーツァルトやバッハの名を口にするようになって、ふと気がつく二人はもう深い恋のとりこになっていた。

ある日、ジェニーは突然フランスへ行く、と云つてオリバーを驚ろかせた。フランスへ行つてナディア・ブーランジェのもとで勉強したい、というのだった。彼女は今の幸福がつかの間のものである事を感じていた。そして実らないう恋の悲しみから逃げようと考えたのだ。貧しい娘と富豪の息子では何も似つかないものは無いように思えた。しかしジェニーのそんな気持をオリバーは問題にしなかった。彼はジェニーに結婚を申し込んだ。オリバーはジェニーを両親に会わせた。オリバーと父(レイ・ミランド)の間には深いミソがあった。母は息子と夫との間に入つてとりなそうとするのだったが、オリバーの態度に怒つた父は二人の仲に反対し、もし結婚すれば送金も中止する、と説明した。オリバーはその言葉をはねつけた。

オリバーとジェニーはロードアイランドに住むジェニーの父(ジョン・マーレー)をたずねた。彼は二人を歓迎しながらも前途を心配した。

オリバーがハーバードの法律学校へ入る少し前に二人は結婚した。学費や生活費のためにジェニーは働き、二人の生活は貧しかった。オリバーも休みには働いた。愛し合う二人にとってそれは苦しみとは思えなかった。

やがてオリバーが優秀な成績で卒業し、二人はニューヨークにアパートを借り、オリバーは法律事務所へ勤める事になった。

そんな新しい生活がはじまったばかりの所だったのだ。オリバーはジェニーに医師の言葉を伝えなかったが、ジェニーはそれを知っていた。

ジェニーの望みでオリバーはスケート場につれていった。オリバーが滑るのを見ていたジェニーはやがて苦しみ出した。ジェニーが入院すると、息子との仲直りをねがっていたオリバーの父が小切手をと、けて来た。しかし、もはや金でジェニーの命が買えない時ではなかった。ジェニーは愛するオリバーに抱かれて、死んだ。

今日もセントラル・パークのスケート場の観覧席に腰を下して、じっと動かないオリバーの姿があった。



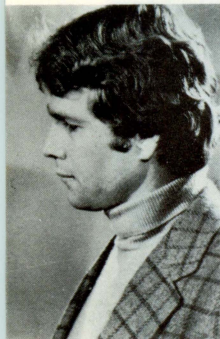
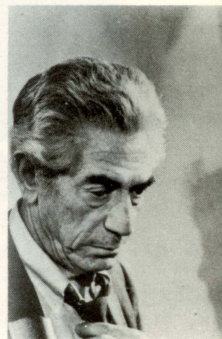
ALI MACGRAW
as Jennie Cavillieri

アリー・マックグロウ

知的な容姿とエキゾチックなムードをもつ女優でニューヨーク生れ。大学で美術、演劇を専攻。卒業後モデルとして一流誌のグラビアを飾ったが、「さよならコロンバス」で映画デビューし続く「ある愛の詩」で人気スターとなる。72年「ゲッタウェイ」で共演したステイブ・マックイーンと結婚、一児がある。

Staff

製作.....ハワード・G・ミンスキー
監督.....アーサー・ヒラー
脚本.....エリック・シーガル
撮影.....リチャード・クラティナ
音楽.....フランシス・レイ

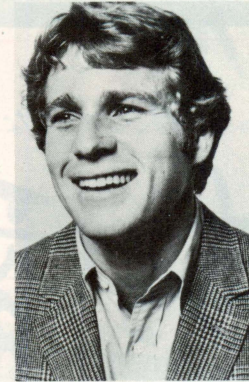


ライアン・オニール

この作品出演当時、新人だった彼も今や、ハリウッドを代表する中堅スターの一人。巾広い役柄と演技で人気を集めている。数多くのTV映画出演後、三本目の映画がこの作品。その後「おかしなおかしな大追跡」「おかしなおかしな大泥棒」「ペーパー・ムーン」「バリバー・リンドン」などに主演している。

Cast

ジェニー.....アリー・マックグロウ
オリバー・バーレット 4世.....ライアン・オニール
オリバー・バーレット 3世.....レイ・ミランド
フィル.....ジョン・マーレー
オリバー夫人.....キャサリン・バルフォア



RYAN O'NEAL
as Oliver Barrett IV.

MUSIC by

W. Mozart/Sonata in F Major (Allegro)

J. S. Bach/Concerto No. 3 in D Major (Allegro)

Francis Lai

パラマウント映画

CIC 配給